

はい!

透析室です

1

マリエ医院

(大阪府東大阪市)

院長 はまだ たか よし
濱田 崇嘉 先生



透析室のスタッフの皆さま

透析クリニックに介護施設を併設 地域の「困った」をすくい上げろ

大阪府東大阪市のマリエ医院では、介護施設を併設して透析が必要な独り暮らしのお年寄りなどを受け入れています。透析のために通院するのが難しい患者さんを安全・安心にサポートしようという試みです。院長の濱田崇嘉先生の信条は「皆が困っていることの一步先」を見つめること。地域の高齢化がこれから本格化する中で、透析患者さんご家族のニーズを見極めます。

独居の高齢者に“帰る場所”を

マリエ医院の“マリエ”はハワイの先住民たちの言葉で、「やすらぎ」や「癒し」という意味です。とても優しく耳に入りやすい言葉なので、開業を決めたときこれを院名にしようと思い立ちました。ただ、産婦人科のクリニックと間違えたのか、「婦人科健診はやっていますか」という電話が以前はありました。

透析が必要なお年寄りを受け入れるため、マリエ医院と同じ敷地内に特別養護老人ホーム「ラブラージュ」(定員80人)を併設し、少し離れた場所には介護老人保健施設「五十忠(いとちゅう)」(同100人)があります。スタッフは、その日に透析を受ける患者さんをラブラージュへ迎えに行き、スタッフ同士が情報交換します。

マリエ医院を立ち上げたのは2006年4月のことなので、もう10年が経ちました。大学を卒業した後、大阪市立大学医学部附属病院で内分科棟とCCU(心疾患集中治療室)で研修し、その後は民間の関連病院で勤務しました。そのときに透析医療と出合ったのがマリエ医院を立ち上げたきっかけです。

このころに痛感したのが、退院後に透析が必要なのに通院するのが難しい独居のお年寄りや、認知症がある患者さんの受け

入れ先がほとんどない現状です。国の政策で病院側は入院の短縮を進めざるを得ないけれど、実際には在宅に復帰するのが難しいケースがたくさんあります。

こうした人たちをどうサポートすればいいのか、当時はものすごく悩みました。

国の制度を「見返そう」

今も忘れられないのが重度の糖尿病だったおばあちゃんです。「風邪」をこじらせて腎盂腎炎になりその後、透析を導入しました。肉親は遠方にいらっしゃるそうで、普段は独り暮らしという方です。治療が一段落したタイミングでそろそろ退院だと伝えられると、おばあちゃんはインスリンを自分で注射することや、薬を飲むのも食事を作るのもすごく不安がっていました。そこで、地域の老健や特養に相談しても軒並み「受け入れ困難」という返事。退院後の施設入居先はほとんどなし。介護施設にしてみれば無理もないことですが、透析患者さんにとっての在宅復帰のハードルの高さを強く感じました。

結局、この方は自宅に退院しました。だけど、ある日送迎車で迎えに行くと、ご自宅で亡くなっていました。このときの悔しさは今も忘れられません。

それもあって、クリニックを立ち上げるなら、通院や在宅復帰が難しい高齢の透析患者さんをサポートしようと考えていました。自分たちは透析に通えないお年寄りのニーズをすくい上げるイメージで、わたしの中でマリエ医院は、介護施設とあくまでセットです。今の体制を実現できるめどが立たなかったら、開院していなかったかもしれません。

現在の患者数は90人ほど。わたし一人でカバーできる数に抑えています。周辺の急性期病院からも退院患者さんを引き受け、もしもこちらで患者さんの容態が急変したら紹介元の病院に対応を依頼します。

患者さんやご家族はとても喜んでくれるし病院からも重宝され、とても良い形で地域貢献できていると思います。

ないもの(困っている)の“一歩先”を

東大阪市は人口50万都市で、2010年時点での高齢化率は23.6%でした。2025年にはこれが31.4%に跳ね上がり、その後も上昇し続けるとみられています。マリエ医院がある地域は

市内でも2番目の高齢化率の高さで、外来でも高齢の患者さんが目立ちます。

高齢化が進むにつれて心疾患がある透析患者さんも増えているので、IHDF（間歇補充型血液透析濾過）を2016年10月に導入しました。

心血管系の合併症が多い高齢者では、透析中に血圧が急に下がるリスクが顕著です。それだけに、心臓への負担が少なく血圧をコントロールしやすいIHDFは、今や不可欠な設備だと感じています。導入したてですが、回診のときに「透析のあとが楽」「食事をしていても血圧が落ちない」と患者さんに声を掛けられるなど好評です。透析施設にIHDFを導入して介護施設を併設するというわたしたちの今のスタイルは、通院できない透析患者さんを支えるために行き着いた現時点での最終形です。

いつも意識しているのは「皆が困っていること」の一歩先を考えること。

患者さんやご家族が今、何に困っているのか——。これからもそこを見極めていこうと思います。

施設概要



施設名：マリエ医院

所在地：〒579-8064 大阪府東大阪市池島町8丁目2-11

T E L：072-981-6006

院長：濱田崇嘉

診療科目：内科、整形外科、人工透析

透析ベッド数：24床

透析室のスタッフ数：医師1人(ほか非常勤3人)、看護師9人、臨床工学技士1人、看護助手7人、事務スタッフ3人

透析シフト：2シフト制

1 2006年に開院したマリエ医院。「マリエ」とはハワイの先住民の言葉で、「やすらぎ」や「癒し」を意味します

2 マリエ医院と同じ敷地内にある特別養護老人ホーム「ラブラージュ」。1.5km離れた場所にある介護老人保健施設「五十忠」。

通院が困難な透析患者さんを受け入れています

3 落ち着いた雰囲気のあるラウンジ。透析患者さんが食事や休憩に使います

4 透析室。2016年10月、最新式のIHDFの設備を導入しました

5 地域の医療ニーズをすくい上げたいと診療に取り組む濱田先生